



### 台南園區と高雄園區からなる南部科学工業園區

(以下、南科と略称)は、行政院が1991年の「国家建設六年計画」の中で明らかにした科学工業園區新設構想に端を発します。1993年には「振興経済方案」が採決され、南部科学工業園區の設置が提唱されました。そして1995年5月には南部科学工業園區準備計画(台南園區第一期)を策定。こうして台湾南部はハイテク産業発展に向けて大きな一歩を踏み出したのです。2001年4月には路竹園區(現・高雄園區)の設置が、9月には台南園區第二期分の開発が認可されました。

台南市の新市、善化、安定にまたがって設置された台南園區は面積1043ヘクタール。主要産業は光電、集積回路、精密機械、バイオテクノロジー、クリーンエネルギーなどとなっています。園區へのアクセスも良く、国道1号線または国道3号線から国道8号線新市交流道を経由するか、省道1号線から園區直通の連絡道路が利用可能です。公共の交通機関を利用する場合は、台鉄沙崙支線の台鉄南科駅から南科無料巡回バスが出ています。交通網が完備しています。



▲ 台南園區交通図



▲ 高雄園區交通図

高雄市の路竹、岡山、永安に570ヘクタールの敷地を持つ高雄園區は光電、精密機械、バイオテクノロジー(医療機材)などを中心とした産業が立地しています。園區へは国道1号線高科交流道から直通連絡道路が通じているほか、台鉄の路竹駅または岡山駅から省道1号線を運行するバスを利用してアクセスすることも可能です。また、MRT連絡バスの紅69Bも利用できます。今後MRTが路竹まで開通すればアクセスは格段にアップすることが見込まれます。園區から小港国際空港まで約35キロ、高雄港まで約40キロという恵まれた立地は、国際物流の面でも大きなメリットだといえるでしょう。